

児童 1年3組 男子14名 女子11名 計25名
指導者 高橋 順子

- 1 単元名** 想像を広げて読み、ペープサートで演じよう
学習材名 中心学習材 くじらぐも (光村図書1年)
補助学習材 めっきらもっきら どおんどん (長谷川 摂子 作 福音館書店)

2 児童と単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、これまでの文学的文章の学習において、学習した読みの方法は、次の3つである。付きたい力「物語の内容の大体をとらえる」(読むことウ)に関しては、「設定をとらえる(登場人物、中心人物、時、場所)」という方法、付きたい力「場面の様子や登場人物などについて想像を広げ、叙述と結び付けて読む」(読むことウ)に関しては、「挿絵などを手掛かりに想像する」「登場人物の会話・行動を基に想像する」「動作化を基に想像する」という方法である。言語活動としては、登場人物の会話・行動を基に、気持ちを想像して新しく会話文を考えたり、ペープサートを動かしたりし、ペープサート劇の発表会を行っている。これまでの学習を通して、登場人物の会話や行動を基に気持ちを想像することはできるようになってきた。今後はそれに加えて、叙述を基に登場人物の気持ちだけでなく、場面の様子を豊かに想像する力を付けていくことが必要である。

読書については、どの児童も本が好きであり、多くは、学校図書館にも進んで足を運んでいる。課題としては、読む本のジャンルに偏りがあるということである。1学期は、図鑑や娯楽(迷路や間違いさがし)等の本を借りる児童が多く、文学的文章を借りる児童は一部に限られた。そこで、本単元の学習を通して、登場人物の会話や行動を基に想像を広げて読むという楽しい経験をさせ、読書の幅を広げていきたい。

(2) 単元と学習材について

本単元「想像を広げて読み、ペープサートで演じよう」では、学習指導要領・読むことウに関する「物語の内容の大体をとらえる力」「場面の様子や登場人物などについて想像を広げ、叙述と結び付けて読む力」を付けるために、「登場人物の会話と行動を基に想像を広げ、好きな絵本のお気に入りの場面においてペープサートで役を演じる」という言語活動を行う。

中心学習材「くじらぐも」は、体育の授業時間という、子ども達にとっては身近な現実の場面から始まっている。そして、風によって空想的な世界に入り、くじらぐもと空を旅した後、また、現実の時間と空間に戻るという作品である。青く広がる空に、大きくて真っ白いくじらぐもが遊びに来るという設定は、子ども達にとって想像を広げやすい作品であると思われる。空にくじらぐもが現れた場面やみんなで力を合わせてくじらぐもに飛び乗った場面、くじらぐもに乗っているいろいろな場所を旅し、雲の上から見える景色を楽しむ場面など、児童は物語の中の子も達になり切って想像を広げ、楽しんでペープサートで役を演じることができると考える。

(3) 単元指導計画の工夫について

ア 付けたい力と読みの方法 【付けたい力】 ○読みの方法

【物語の内容の大体をとらえる力】

- 設定をとらえる。(登場人物、時、場所)

読みの方法「設定をとらえる。」については、深める段階と広める段階で指導する。言語活動で、会話を考えたりするペープサートを動かしたりする時に、内容の大体から外れないようにするための手立ての一つとして、設定をとらえさせていく。

深める段階では、中心学習材である「くじらぐも」の設定をとらえさせる。登場人物が自分達と同じ1年生であることを知ることで、学習材を身近に感じ、登場人物と同化しやすくなると思われる。また、場所が校庭→空→校庭、時が4時間目の中でも現実→空想の世界→現実となっていることをとらえさせることにより、想像する時に使う観点や内容にも関わってくると考えられるので大事に扱っていく。

広める段階では「めっきらもつきらどおんどん」の設定をとらえさせていく。中心人物であるかんたが3人のおばけに出会うことや、場所も神社→夜の山→神社となっていることをとらえさせることは、叙述に基づいた想像をさせる上で大事な要素になると考える。

【場面の様子や登場人物などについて想像を広げ、叙述と結び付けて読む力】

- 登場人物の会話・行動を基に想像する。
 - ・ 会話と行動 (ペープサートの動き)

読みの方法「登場人物の会話・行動を基に想像する」は、見通す段階と深める段階、広める段階において指導する。見通す段階においては、教師のペープサート劇を見て、登場人物の会話・行動を基に想像を広げ、会話文やペープサートの動きを考えていくことを確認する。さらにペープサート劇の会話文は、見えたこと(目)、聞こえてきた音や声(耳)、その時に感じた気持ち(心)の3観点に気を付けて考えると、より想像を広げやすいこと、ペープサートの動かし方は本文の会話と行動から外れないように考えていくことをおさえる。

深める段階では、広める段階で自分の好きな本で想像を広げて読むために、「くじらぐも」において、会話と行動を基に想像を広げ、3観点に気を付けて会話文を考えたり、ペープサートの動きを考えたりする。ここでは、1年2組の子ども達の一員となり、自分が描かれたペープサートを用いて役を演じていく。そして、ペアや全体で交流する中で、見えたこと(目)、聞こえてきた音や声(耳)の同じ観点でも多様な会話文が考えられること、また、ペープサートの動きについても、同じ会話や行動の文を基にしても多様な動きが考えられることに気付かせ、想像することの面白さを感じることができるようにしていく。

広める段階の「めっきらもつきらどおんどん」では、中心人物であるかんたの会話と行動を基に想像を広げ、3観点に気を付けて会話文を考えたり、ペープサートの動きを考えたりする。ここでは、かんたのペープサートを用いて役を演じる。そして、自分の好きな絵本のお気に入りの場面においても同様の読みの方法を用いて、想像を広げながら読み、会話文やペープサートの動きを考えていくことをとらえさせる。ここでも、会話文やペープサートの動かし方をペアや全体で交流し、それぞれの

考え方に触れることで、会話と行動を基に豊かに想像する力を高めていく。

イ 言語活動

「物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること」

様式：ペープサート

字数：1～2文（一文20字程度）

要素：会話文…見えたこと（目）、聞こえてきた音や声（耳）、その時に感じた気持ち（心）

動作…登場人物の会話や行動を基に想像したもの

目的：自分の好きな絵本を想像を広げて読み、お気に入りの場面をペープサートで演じ、友達に伝える。

相手：1年生の友達

本単元では、会話や行動を基に想像を広げて読んだことをペープサートで演じる言語活動を行う。深める段階では、学習材「くじらぐも」の好きな場面において、子ども達の会話と行動を基に想像を広げ、それぞれの観点を意識して会話文を考えたり、ペープサートの動きを考えたりする。ここでは、子ども達と同化し、役を演じていく。広める段階では、まず「めっきらもつきら どおんどん」のもんもんびやっことなわとびをする場面において、中心人物のかんたの会話と行動を基に想像を広げ、3観点到気を付けて会話文を考えたり、ペープサートの動きを考えたりする。ここでは、かんたの役になり切って演じていく。そして、単元の最後には、自分の好きな絵本の中心人物の会話と行動を基に豊かに想像を広げながら読み、お気に入りの場面において会話文とペープサートの動きを考え、楽しんで演じることができるようしていきたい。

ウ 単元全体を見通す場と学習の振り返りの場を位置付けた指導

見通す段階では、教師による「めっきらもつきら どおんどん」のペープサート劇を見て、自分達もあのように演じてみたいという憧れを抱かせる。そして、自分の好きな絵本のお気に入りの場面をペープサートで演じるというゴールを示し、「想像を広げて読み、ペープサートで演じよう」という単元名を伝える。ペープサート劇では、登場人物の行動と会話を基に、自分で新しく会話文やペープサートの動きを考え、発表することを確認する。伝える相手については、「はなのみち」や「おむすびころりん」、「おおきなかぶ」のように学級の友達だけでなく、他の学級の1年生とペープサート劇を交流することを伝え、他の学級の友達はどのようなペープサート劇を発表するのだろうという期待や自分達もペープサート劇を発表したいという意欲を高めていく。ペープサート劇で考える会話文を具体的にイメージできるように、モデル文を示す。会話文Ⅰ（その時に感じた気持ちの1観点が入ったもの）と会話文Ⅱ（会話文Ⅰに加え、見えたことや、聞こえてきた音や声が入ったもの）を提示し、内容について比較検討をさせる。そうすることにより、自分が会話文を考える際に、3観点到気を付けて考えると、より豊かに想像を広げることができることに気付かせていきたい。また、ペープサートの動きについても、会話と行動を基に想像を広げ、動きを考えていくことをおさえる。

深める段階と広める段階では、会話文とペープサートの動きについて、振り返りカードで自己評価をする。そして、まとめる段階における振り返りの活動では、振り返りカードの自己評価や、単元の最初と最後に書いた会話文の比較を行い、想像する力が付いてきていることを実感させ、自信へとつ

なげていきたい。さらに、想像して読むことの楽しさについて発表させ、これからも文学的文章を読んでいきたいという意欲付けを図る。

3 単元の目標と評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	○ 文学的文章の楽しさに気付いたり、ペープサートで自分の考えを表現したりしようとするができる。	・文学的文章の楽しさに気付いたり、ペープサートで自分の思いを表現したりしようとしている。
読む能力	◎ お気に入りの場面をペープサートで演じるいう目的をもって、登場人物の会話と行動を基に想像を広げ、会話文やペープサートの動きを考えて演じることができる。	・登場人物の会話と行動を基に想像を広げ、3観点に気を付けて会話文を書いている。 ・登場人物の会話と行動を基に想像を広げ、ペープサートの動きを考えている。〈ウ〉
言語についての知識・理解・技能	○ 主語と述語との関係に注意して、登場人物の会話と行動を的確にとらえることができる。 ○ 句読点の打ち方や、かぎ（「 」）の使い方を理解して文章の中で使うことができる。	・主語と述語との関係に注意して、登場人物の会話と行動を的確にとらえている。〈イ（カ）〉 ・会話文を書く時に正しく、かぎ（「 」）を使っている。〈イ（オ）〉

4 単元の指導計画と評価基準（全13時間）

段階	時	学習活動	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	補助学習材
見通す	1	教師によるペープサート劇を見る。 単元のゴールには、自分の好きな絵本のお気に入りの場面において、登場人物の会話文とペープサートの動きを考えて演じることをつかむ。 会話文を考える3観点の要素をとらえる。	文学的文章に書かれている世界に浸りながら、楽しんでペープサート劇を見ている。 (観察)	会話文を考える3観点の要素をとらえている。(観察)		「めっきらもつきらどおんどん」
	2	教師が演じたペープサート劇から、ペープサートの動きは、会話と行動を基に考えていることをつかむ。		会話と行動に合わせてペープサートを動かしたり、それらを基に自分で動きを想像していったり	主語と述語との関係に注意して、登場人物の会話と行動を的確にとらえている。 (観察)	

				することをとらえている。 (観察・発表)		
深 め る	3	「くじらぐも」の設定をとらえる。		文章や挿絵を手掛かりに設定(時・場所・登場人物)をとらえている。 (観察・発表)		
	4	「くじらぐも」の好きな場面において、子ども達の会話と行動を基に想像を広げ、1観点(目)を入れて会話文を書いたりペープサートの動きを考えたりして演じる。友達と相互評価する。	観点到気に気を付けて、会話文を考えようとしている。(観察)	会話と行動を基に想像を広げ、1観点(目)を入れて会話文を書いている。(お話カード) 会話と行動を基に動きを想像しながらペープサートを動かしている。 (観察・発表)		
	5	「くじらぐも」の好きな場面において、子ども達の会話と行動を基に想像を広げ、1観点(耳)を入れて会話文を書いたりペープサートの動きを考えたりして演じる。友達と相互評価する。		会話と行動を基に想像を広げ、1観点(耳)を入れて会話文を書いている。 (お話カード) 会話と行動を基に動きを想像しながらペープサートを動かしている。(観察・発表)	会話文を書く時に、正しくかぎ(「」)を使っている。 (お話カード)	
	6	自分の好きな場面において、子ども達の会話と行動を基に想像を広げ、3観点到気に気を付けて会話文を書いたりペープサートの動きを考えたりして演じる。会話文を友達と相互評価する。		会話と行動を基に想像を広げ、3観点到気に気を付けて会話文を書いている。 (お話カード) 会話と行動を基	会話文を書く時に、正しくかぎ(「」)を使っている。 (お話カード)	

				に動きを想像しながらペープサートを動かしている。(観察・発表)	
広 め る	7	「めっきらもっきらどおんどん」の設定をとらえる。		文章や挿絵を手掛かりに設定(時・場所・登場人物・中心人物)をとらえている。 (観察・発表)	「めっきらもっきらどおんどん」
	8	決められた場面において、かந்தの会話と行動を基に想像を広げ、3観点に気を付けて会話文を書いたりペープサートの動きを考えたりして演じる。		かந்தの会話と行動を基に想像を広げ、3観点に気を付けて会話文を書いている。(お話カード) かந்தの会話と行動を基に動きを想像しながらペープサートを動かしている。 (観察)	
	9 ・ 10 ・ 11	自分の好きな本を選び、お気に入りの場面において、登場人物の会話と行動を基に3観点に気を付けて想像を広げ、会話文を書いたりペープサートの動きを考えたりして演じる。 ペープサート劇発表会の練習をする。	文学的文章の楽しさに気付いている。 (観察) 友達と相互評価しながら、発表の仕方を工夫しようとしている。(観察)	自分の好きな場面において、登場人物の会話と行動を基に想像を広げ、3観点に気を付けて会話文を書いている。(お話カード) 登場人物の会話と行動を基に動きを想像しながらペープサートを動かしている。(観察)	自分の好きな本 (指定した本の中から)

	12	ペープサート劇発表会をする。	ペープサート劇で自分の思いを表現しようとしている。 (観察)			
ま と め る	13	単元の振り返りをする。	想像を広げて読む力が付いていることや想像して読むことの楽しさに気づき、今後文学的文章を手にとって読んでいこうとしている。 (発表・観察)			

5 本時の指導 (8/13)

(1) 本時の目標

決められた場面において、かんだの会話と行動を基に想像を広げ、3観点に気を付けて会話文を書いたりペープサートの動きを考えたりして演じることができる。

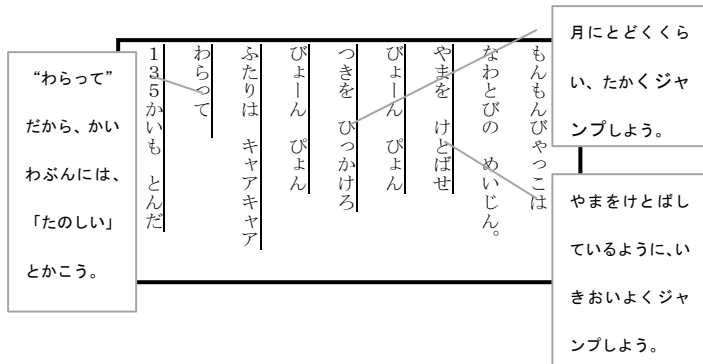
(2) 本時の評価の観点と評価規準

評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への手立て
読む能力	Bに加えて具体的な叙述の一部を表現に取り入れ、会話文を書くことができる。 例)「もんもんびやっことなわとびができてたのしいな。やまをけとばして、じゃんぶするとすごくたかくとべるよ。」	かんだの会話と行動を基に想像を広げ、3観点に気を付けて会話文を書くことができる。 例)「もんもんびやっことなわとびができてたのしいな。たかくとべてすごいな。」 かんだの会話と行動を基に動きを想像しながらペープサートを動かすことができる。	目、耳、心の中から書くことができそうな観点を選ばせ、会話文を書かせるようにする。

(3) 展開

段階	学習活動 ○発問・期待する児童の反応	教師の支援 学習内容 ◎評価・留意事項
見通す 3分	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>○ 自分の好きな絵本のお気に入りの場面で、ペープサートで役を演じるために、今日は「めっきらもっきらどおんどん」で練習してみましよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>かいわぶんやペープサートのうごきをかんがえ、やくをえんじよう。</p> </div> <p>2 読みの視点を確認する。</p> <p>○ 考えること</p> <p>① 会話文</p> <p>② ペープサートの動き</p> <p>○ 気を付けること</p> <p>① 会話文は、3つの大切なことに気を付けて考えること</p> <p>② したこと、言ったことからペープサートの動きを考えること</p>	<p>・ 次時に向けて、「めっきらもっきらどおんどん」の一場面では会話文とペープサートの動きを考えることをつかませ、本時の学習の意欲付けを図る。</p> <p>・ 学習コーナーで3つの大切なこと（3観点）を確認する。</p> <p>① 見えたこと（目）</p> <p>② 聞こえてきた音や声（耳）</p> <p>③ その時に感じた気持ち（心）</p>
深める 32分	<p>3 課題に対して自分の考えをもつ。</p> <p>(1) 指定された場面で会話文とペープサートの動きを考える。</p> <p>○ もんもんびゃっことかんだが縄跳びをする場面で会話文とペープサートの動きを考え、演じていきましょう。</p> <p>○ この場面の設定を確かめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物…かんだ、もんもんびゃっこ ・ 時…夜 ・ 場所…夜の山 <p>○ 今日は、かんだになったつもりで演じていみましょう。</p> <p>○ かんだがしたことや言ったことは何ですか。</p> <p>○ したことや言ったことから外れずに、かんだに</p>	<p>・ 大型絵本のその場面を広げて提示し、絵本の世界に入り込んで役を演じることができるようにする。</p> <p>・ 本時の場面を全員で音読し、確認する。</p> <p>・ 内容の大体をとらえるために設定を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>設定をとらえること</p> <p>・ 登場人物 ・ 時 ・ 場所</p> </div> <p>・ 本時は、中心人物であるかんだになったつもりで役を演じていくことを確認する。</p> <p>・ かんだの会話と行動にサイドラインを引いて確認する。（紙板書）</p> <p>・ サイドラインの会話と行動の文を基に</p>

なつたつもりで会話文やペープサートの動きを考えていきましょう。



想像を広げ、会話文を書いたりペープサートの動きを考えたりすることを確認する。

会話と行動を基に会話文を想像すること

- ・見えたもの
- ・聞こえたことや音
- ・気持ち、思ったこと、考えたこと、感じたこと

会話と行動を基にペープサートの動きを想像すること

- ・考え終わった児童には、ペープサートで演じる練習をするように声を掛ける。
- ・会話文を考えることが難しい児童には、目、耳、心の3観点の中から書くことができそうな観点を選ばせ、書かせるようにする。また、ペープサートの動きについては、会話と行動の文に合わせて動かしながら考えるように助言する。

4 友達と考えを交流する。

(1) 友達と自分の考えた会話文とペープサートの動かし方を紹介し合う。

○ 隣の友達と自分が考えた会話文とペープサートの動かし方を紹介し合ひましょう。そして、よかったところを教えてあげましょう。

○ みんなで友達が考えた会話文は3つの大切なことのうちのどれを使っているか、ペープサートの動かし方はかんだのしたことと言ったことから外れていないか確かめましょう。

- ・ 目（耳、心）を使って書いているのでいいと思います。
- ・ 目で見えたことを詳しく書いているのでいいと思います。
- ・ ペープサートの動かし方は、月にとどくくらい高くジャンプしているのでしたこと

・ 会話文は3観点のどれを使っているかペープサートの動かし方は会話と行動と合っているか気付いたことをよさとして、相手に伝えるように助言する。

・ ここで取り上げる会話文は、3観点と叙述の一部を表現に取り入れて書いているものを取り上げ、全体で確認する。

・ 動かし方については、どの会話と行動の文を基に考えているのかを発表者

	<p>と合っていると思います。</p> <p>○ 友達の発表で気に入ったところを取り入れて、もう一度会話文とペープサートの動かし方を考えてみましょう。</p>	<p>に問い掛け、全体で確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話文は、はじめに書いたものは消さないで、別の用紙に書かせるようにする。そして、別の観点で書いたり、同じ観点でも別のことを付け足したりして書くように声を掛ける。 ・ペープサートの動かし方については、友達の動かし方を参考に、もう一度会話と行動の文を基に考えてみるように助言する。 ・考え終わった児童には、ペープサートで演じる練習をするように声を掛ける。
<p>ま と め る 10 分</p>	<p>5 学習したことを表現する。</p> <p>○ ペープサートで演じてみましょう。</p> <p>6 学習について振り返る。</p> <p>○ 3つの大切なことに気を付けて会話文を考えることができましたか。</p> <p>○ したことと言ったことから、ペープサートの動きを考えることができましたか。</p> <p>7 次の学習について知る。</p> <p>○ 次の時間は、いよいよ自分の好きな本のお気に入りの場面で会話文やペープサートの動きを考えていきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文は3観点を使って考えていたり叙述を取り入れたりしているところを具体的に褒める。 ・ペープサートの動かし方については、同じ会話と行動の文を基にしても多様な動かし方があることに気付かせ、想像することのおもしろさを感じ取れるようにする。 <p>◎かんだの会話と行動を基に想像を広げ、3観点到気を付けて会話文を書くことができたか。(お話カード)</p> <p>◎かんだの会話と行動を基に動きを想像しながらペープサートを動かしているか。(観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話文とペープサートの動きについて ◎○△で自己評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を高め、次時につながるようにしていく。

(4) 板書計画

「めっきらもつきら どおんどん」

① かいわぶんやペーサートのうごきをかんがえ、
やくをえんじよう。

せつてい

- ・ 登場人物：かんた、もんもんびやっこ
- ・ 時：夜
- ・ 場所：夜の山

紙板書 (本文)

会話文

- ところをつかっている。
- めをつかっている
- しみをつかっている
- かんたがしたことや
いったことをいれて
かいている。

ふりかえり

かいわぶん…3つのたいせつなことに
きをつけてかんがえたか。
ペーサートのうごき…したことといたったことから
はずれていないか。

本単元の学習指導一覧表

単元名

想像を広げて読み、ペープサートで演じよう

中心学習材

くじらぐも

目標:登場人物の会話と行動を基に想像を広げ、好きな絵本のお気に入りの場面においてペープサートで役を演じる。
読むこと ウ)

段階	主な学習活動	主な評価	○読みの方法 ・補助学習材
見通す 単元全体のめあてをつかみ、学習計画を知る。	① 教師によるペープサート劇を見る。単元のゴールには、自分の好きな絵本のお気に入りの場面において、登場人物の会話文とペープサートの動きを考えて演じることをつかむ。会話文を考える3観点の要素をとらえる。 ② 教師が演じたペープサート劇から、ペープサートの動きは、会話と行動を基に考えていることをつかむ。	①物語に書かれている世界に浸りながら、楽しんでペープサート劇を見ている。(関：観察) 会話文を考える3観点の要素をとらえている。(読：観察) ②会話と行動に合わせてペープサートを動かしたり、それらを基に自分で動きを想像していたりすることをとらえている。	○会話文 3観点(見たこと、聞こえたことや音、気持ち) ○動作化(ペープサート) ・「めっきらもっきらどおんどん」
深める 目的に沿って中心教材を読み取る。	③「くじらぐも」の設定をとらえる。 ④「くじらぐも」の好きな場面において、子ども達の会話と行動を基に想像を広げ、1観点(目)を入れて会話文を書いたりペープサートの動きを考えたりして演じる。友達と相互評価する。 ⑤「くじらぐも」の好きな場面において、子ども達の会話と行動を基に想像を広げ、1観点(耳)を入れて会話文を書いたりペープサートの動きを考えたりして演じる。友達と相互評価する。 ⑥「くじらぐも」の自分の好きな場面において、子ども達の会話と行動を基に想像を広げ、3観点到気を付けて会話文を書いたりペープサートの動きを考えたりして演じる。会話文を友達と相互評価する。	③文章や挿絵を手掛かりに設定(時・場所・登場人物)をとらえている。(読：観察、発表) ④会話と行動を基に想像を広げ、1観点(目)を入れて会話文を書いている。(読：お話カード) 会話と行動を基に動きを想像しながらペープサートを動かしている。(観察・発表) ⑤会話と行動を基に想像を広げ、1観点(耳)を入れて会話文を書いている。(読：お話カード) 会話と行動を基に動きを想像しながらペープサートを動かしている。(観察・発表) ⑥会話と行動を基に想像を広げ、3観点到気を付けて会話文を書いている。(読：お話カード) 会話と行動を基に動きを想像しながらペープサートを動かしている。(読：観察)	○設定 文章や挿絵 ○登場人物の会話と行動 ○会話文 3観点(見たこと、聞こえたことや音、気持ち) ○動作化(ペープサート)
広める 学んだことを生かし、好きな本のお気に入りの場面で想像を広げて読み、会話文とペープサートの動きを考えて、演じる。	⑦「めっきらもっきらどおんどん」の設定をとらえる。 ⑧(本時)決められた場面において、かんだの会話と行動を基に想像を広げ、3観点到気を付けて会話文を書いたりペープサートの動きを考えたりして演じる。 ⑨⑩⑪自分の好きな本を選び、お気に入りの場面において、登場人物の会話と行動を基に3観点到気を付けて想像を広げ、会話文を書いたりペープサートの動きを考えたりして演じる。ペープサート劇の発表会の練習をする。 ⑫ペープサート劇の発表会をする。	⑦文章や挿絵を手掛かりに設定(時・場所・登場人物)をとらえている。(読：観察、発表) ⑧かんだの会話と行動を基に想像を広げ、3観点到気を付けて会話文を書いている。(読：お話カード) かんだの会話と行動を基に動きを想像しながらペープサートを動かしている。(読：観察) ⑨⑩⑪自分の好きな場面において、登場人物の会話と行動を基に想像を広げ、3観点到気を付けて会話文を書いている。(読：お話カード) 登場人物の会話と行動を基に動きを想像しながらペープサートを動かしている。(読：観察) ⑫ペープサート劇で自分の思いを表現しようとしている。(観察)	○設定 文章や挿絵 ○登場人物の会話と行動 ○会話文 3観点(見たこと、聞こえたことや音、気持ち) ○動作化(ペープサート) ・「めっきらもっきらどおんどん」 ・自分の好きな本(指定した本の中から)
まとめる 学習の振り返りをする。	⑬単元の振り返りをする。	⑬想像を広げて読む力が付いていることや想像して読むことの楽しさに気付き、今後も物語を手にとって読んでいこうとしている。(読：シート)	

ゴールに据える言語活動

【言語活動】物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること **【様式】**ペープサート

【言語能力】登場人物の会話と行動を基に想像を広げて読み、会話文やペープサートの動きを考え、役を演じる。学年の友達と交流する。

【要素】会話文・・・見えたこと(目)、聞こえた音や声(耳)、その時に感じた気持ち(心)
 動作・・・登場人物の会話や行動を基に想像したもの